

# 平成30年度 校内研究の概要

## 1 研究主題

### 課題解決に向けて、主体的に学び合う授業の工夫 ～「進んで学び 考えを深める子供」を育てるために～（第2年次）

## 2 研究主題設定の理由

### (1) 目指す子供像

本校では、教育目標「思いやりのある たくましい子供」を掲げ、「進んで学び 考えを深める子供」の育成を目指している。発達段階に応じて、各学年部での目指す姿を下記のように設定する。

- ◎低学年：自分の考えを進んで表現する子供
- ◎中学年：自分の考えと友達のことを比べながら、進んで表現する子供
- ◎高学年：互いの考えを認め合いながら、進んで表現する子供

### (2) 研究の経緯

平成29年度から、「課題解決に向けて、主体的に学び合う授業の工夫～『進んで学び 考えを深める子供』を育てるために～」を研究主題に、「①課題に対応したまとめ」「②主体的・対話的に学ぶ子供を育成するための学習形態の工夫」を意識して、授業改善を進め、下記のような成果と課題が見られた。

#### 課題に対応したまとめ

- 課題を児童の身近なものや考える必要性のあるものに設定したことで、「解決したい。」「知りたい。」という思いをもち、意欲を喚起できた。
- 学習した課題・内容を終末で練習問題として確認することで、学習内容が理解できたか確認した。
- 終末時には、その学習で身に付けさせたい内容をキーワードとして提示し、「キーワードを使用して○行でまとめよう。」と指示することで、課題に対応したまとめをすることができるようになってきた。
- 学習活動より気付いたことをノートに記録する際に、既習事項を用いて、自分の考えを書く児童も増えてきた。
- △児童との対話を通して、必然性があり、児童が「やってみよう」と思うような課題を提示していく。
- △発問の出し方を工夫し、子供たち同士で学ぶよさや考えをつなげることができるような活動を組む必要がある。課題とまとめが対応するような道筋の見える学習を進める。



主体的に学ぶため、課題を設定する際には、児童が「やってみよう」「調べよう」と思う課題を設定するが、その課題が、身に付けたい力と対応しているか、授業者は、意識して取り組んでいく必要がある。そして、その課題に対して、一人一人が自分の考えをもち、解決に向けて

進んで取り組むことができるように、支援していく必要がある。

まとめでは、1時間の授業の中で、自分の成長やできるようになったことが分かるという実感に伴う実践が多くなり、授業者は、まとめにつながるような課題を設定したり、工夫したりしながら、授業改善に臨んできた。そして、前時でのまとめを使って次時の学習活動に活かすことができる子、まとめで使用したキーワードをもとに、学習を進める子が見られるようになってきた。

課題に対応したまとめを1時間の中で行えるよう、時間配分に気を付けて授業を進める必要がある。

#### 主体的・対話的に学ぶ子供を育成するための学習形態の工夫

- 2人ペアでの活動では、活動にどうしても差が生じてしまうため、3人グループでの活動を組んでみた。
- 4人グループでは、傍観するだけの児童もいる。そのため、3人グループで話し合うことで、黙っている児童はいなかった。また、2対1で意見が対立する場面もあり、個々の意見が出しやすかった。
- 授業の展開部では、ペアやグループでの活動を入れるが、授業の最初と最後には、全体で確認し合う場面を設定した。
- 話合いのテーマが意見交流できるよう、意見を2つの立場に分けたことで、自分の立場をはっきりさせ、意見交流をすることができた。違う立場の意見を聞くことで、メリットやデメリットについても考えることができた。
- △自分の考えをもち、表現することが苦手な子が多く、自分の考えをもってグループ活動に臨むことができるような支援が必要であった。
- △グループでの話合いが、単なる感想を述べ合うだけでなく、話し合う必要性をもたせ、深めていく。
- △グループでの話合いを全体場で交流できるよう、時間配分に気を付けていく。



ペアやグループでの意見交流は、考えを深めるための手段であり、学習課題に対して、主体的・対話的に学ぶために、有効な活動であった。

グループでの話合いを全体場で交流し合う時間を取り、学級全体としての深まりも必要である。多様な考えに触れる場を設定していく。

グループの場の見取りが不十分で、よい意見や考え等が埋もれてしまうことがある。例えば、小型のホワイトボードに考えを記入する等、グループの話合い方を工夫する必要がある。

そこで、今年度は、「自分の考えをもち、課題解決に向かうことができるような支援」を意識して、授業改善を進めていく。

### 3 授業改善の視点

#### (1) 子供が学ぶ意味が分かるような授業構想

- ・「何を」「なぜ」教えるのかを教師が把握し、「身に付けさせたい力」を明確にする。
- ・単元全体のねらい・単元のゴールの姿を子供と教師が共通理解する。
- ・自分の考えを話したり書いたりする活動やペアやグループ、全体で話し合う活動は課題を解決するために効果的であるか。

## (2) 子供の意欲を喚起する課題提示

- ・「やってみたい」という思いを喚起するために、適度な困難さがあり、努力すれば解決できると感じられる課題
- ・子供にとって、見通しをもち、考える必要性の感じられる課題

## (3) 子供が自らの学びを確認できるようなまとめと振り返り

- ・学んだことが明確になるまとめ
- ・意欲を高め、学びをつなげる振り返り
- ・子供の言葉によるまとめ（例：キーワードを活用したまとめ）
- ・新しく獲得した事柄と既存の事柄をつなげるような振り返り
- ・子供の集中力がとぎれないため、時間内のまとめ・振り返り

## 4 研究の方法

### (1) 授業改善の視点を明確にした提案性のある授業研究を積み重ねていく。《学年1公開》

- ・授業者は、年1回公開し、学習上の課題を共通理解する。（教科などは限定しない。）
- ・授業公開は、略案指導案（A4で1枚）を基本とする。ただし、外部への公開は、細案とする。
- ・研究内容に関わる授業改善で効果を上げた指導方法を共有し、各自の実践に生かす。

#### 【公開までの流れ】

- ① 学年で授業の構想を立てる。（身に付けさせたい力・単元のねらいやゴールを明確にする。）
- ② 指導案検討（研推＋公開学年担任）
- ③ プレ授業（もう一方の学級で）
- ④ 学年で再検討（研推＋公開学年担任）
- ⑤ 授業公開
- ⑥ 協議会（全員）

### (2) 全国学力・学習状況調査や県小教研学習指導改善調査、学年テスト、Web配信問題などを基に、学習上の課題を洗い出し、指導の改善に努める。

### (3) 基礎学力の確実な定着と学習習慣の確立を図る。

- ・「Web配信システム」の有効活用（3～6年）  
過去問題や解説を参考に授業改善→過去問題（授業や家庭学習で）→診断問題（授業の中で）  
→サポート問題
- ・学年テスト（1・2年）  
年4回実施
- ・「わたしの計画」に基づく「家庭学習強調旬間」  
鏡が沖中学校区の共通取組  
年4回実施

### (4) 基礎研修や外部講師による研修会を通して、学んだことを授業改善に生かす。

### (5) 自己実践を丁寧に振り返るため、市教委論文や上教大の論文に、積極的に応募する。

(6) 特色ある教育活動の推進をする。

- ・全校で取り組む朝読書「さわやかタイム」と地域ボランティアによる読み聞かせ「絵本箱」
- ・児童の思いや願い、意識の流れを大切に生活科、総合的な学習の時間の取組

(7) 研究評価は、授業実践、研究協議、児童による学習アンケート等から、今年度の研究を検証する。

- ・Webサポート問題の「確認問題」が前回よりも上回る。
- ・学年漢字テストで70%の合格を目指す。
- ・学校での授業の内容はよく分かる。【鏡中学区共通評価事項】
- ・授業中、自分の考えを話している。(ペアで・グループで・みんなの前で)【鏡中学区共通評価事項】
- ・家庭学習を毎日行っている。(宿題・自主学習・塾等を含む)【鏡中学区共通評価事項】

## 5 主な研修

月	日	授業研究会・研修会
4	12日(金)	・外国語活動研修 ・研修の年間計画
5		・研修の年間計画
6	15日(金) 日( )	・三校合同研修会 ・授業研究①
7	日( )	・授業研究②
8	20日(月) 22日(水) 日(火) 日( )	・三校合同研修会 ・教育文化講演会 ・特別支援教育研修 ・県小教研学習指導改善調査の採点、処理、授業改善への検討
9	日( ) 日( )	・授業研究③ ・学校財務研修
10	日( )	・授業研究④
11	日( ) 日( )	・授業研究⑤ ・人権教育研修
12	日( )	・授業研究⑥
1	日( )	・外国語活動研修

		・研修のまとめ作成
2		・研修のまとめ作成
3		・研修のまとめ発行